

令和6年（2024年）度行政評価シート

令和 6 年 8 月 1 日

評価者	共生共創部長 能條 裕子
評価者	こどもみらい部長 廣川 正
評価者	健康福祉部長 鷲尾 礼弁

○ 施策の概要

総合計画上の位置付け	分野	4-(1) 健康福祉	施策の方針	4-(1)-①多様性のある福祉サービスの充実
目標とするまちの姿	市民一人ひとりが、お互いを尊重し合い、支え合い、多様性を認め、自らが望む形で社会との関わりを持ち、生涯にわたって安心して自分らしく暮らすことのできるまちとなっています。			
主な取組	(1) 共生社会についての意識形成及びその実現に向けた仕組みづくり 共生社会についての市民や市職員に対する意識の形成を通じて、共生社会の実現を目指します。また、市民が、世代や背景を超えて地域でつながり、支え合う中で、「支え手」と「受け手」の立場を固定せず、だれもが役割と生きがいを持てるよう、その実現に向けた仕組みづくりに取り組めます。 (2) 福祉相談・支援体制の充実 市民の抱える課題やニーズが多様化、複雑化する中で、市と地域包括支援センター等の関係機関が相互に連携し、様々な生活課題を相談・解決できる場と、包括的かつ総合的に相談・支援を行う仕組みづくりを進めます。 (3) ライフステージに応じた福祉サービスの提供 高齢者や障害者をはじめ、様々な福祉的課題を抱える市民が、ICT などの先端技術も活用して、ライフステージに応じた福祉サービスを利用できるよう体制の確保を図ります。また、住民同士が支え合える仕組みづくりや、福祉サービスを提供する人材確保への支援、多職種が連携し、それぞれの専門性を発揮した多様な福祉サービスの提供、市民自らが選択できる地域づくりを通じて、地域包括ケアシステムを構築するとともに、まちづくりとしての鎌倉版地域包括ケアシステムへと拡げていきます。 (4) 市民等の福祉活動への支援 高齢者や障害者等の支援に携わる関係機関や関係団体の活動を支援し、地域で行われる支援活動の充実を図ります。 (5) 高齢者・障害者等の社会参加、生きがいづくりの推進 高齢者や障害者等の活動支援や障害者二千九百人雇用センター及びワークステーションかまぐらによる就労支援を進め、自立と社会参加を推進します。 (6) 権利擁護施策の充実 成年後見や虐待防止など、高齢者や障害者の人権が尊重され、その権利が擁護される体制の整備や周知・啓発活動の充実を図ります。 (7) 生活困窮者支援の充実 生活再建や貧困の連鎖の防止など、長期的な視点で生活困窮者への支援の充実を図ります。 (8) 医療・セーフティネットの確保 すべての市民が健康で安心して暮らせるよう、生活保護制度をはじめとするセーフティネットや国民健康保険事業など、社会保障制度の適切かつ安定的な運営を図ります。			

1. 前年度(評価対象年度)の当該施策の目標

共生共創部

- ① 共生社会の実現に向けた啓発活動として、市民向け研修会等をし、共生意識の醸成を図る。
 ② 庁内において検討されている地域課題解決のための各種プラットフォームの構築内容、議論等を踏まえ、関係部署と協議しながら地域支援を進める。

こどもみらい部

医療的なケアを必要とする重症心身障害児の受け入れをはじめとした、障害福祉サービスのニーズを確認するため、障害児通所支援事業者や利用者等からの情報収集を行う。

健康福祉部

- ・ケアラー支援条例の制定を目指して、必要となる施策を整理し、これまでは家族内で抱えこみがちだったケアの社会化に向けた取組を進める。
- ・鎌倉版フォルケホイスコーレ事業において、現状や将来に不安を抱える市民に対して、長期的な視野をもち、自分の進む道を見出す機会を得られるような研修を行うことで、共生社会を構築する人材の育成と、地域におけるつながりの創出を目指していく。
- ・包括的支援体制推進事業においては、地域づくりの考え方及び支援会議のあり方などの検討を進め、地域における支援体制の強化を目指す。
- ・より活用しやすい制度に見直しをした補助金制度について、その評価をしていく(団体間の情報交換会実施や専門職派遣による団体支援等における聞き取り等)。また、第8期鎌倉市高齢者保健福祉計画に基づき、地域密着型サービス事業所の公募を行い、施設整備を進める。
- ・生活困窮者への支援として、フードバンク事業を継続的に実施できるよう、協働事業者とともに実施体制の検討を進めていく。またひきこもり対策の推進として、ひきこもり地域支援センターを拠点とした、相談支援・居場所・就労練習・地域交流による支援を行う。
- ・現在実施している外出支援に係る事業の拡充を図りながら、引き続き支援の在り方を検討する。
- ・令和5年3月末時点における「デジタル就労支援センターKAMAKURA」の登録者は21名であるが、これを令和5年度中に登録者数50名を目標とするとともに、一人でも多くの就労に困難を抱える者の社会参加・自立を支援するため、支援対象者の拡充をあわせて検討することで、就労に困難を抱える障害者等への就労支援を行っていく。

2. 投入コスト

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	7,085,638	7,380,435	8,070,799	8,635,131		
人件費	546,981	547,974	570,843	562,948		
総事業費	7,632,619	7,928,409	8,641,642	9,198,079	0	0

3. 施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果

重点事業	整理番号	事業名	法定受託事務	事業費(千円)	人件費(千円)	総事業費(千円)	事業評価	貢献度	最終評価
	共生-16	共生社会推進事業		50	3,326	3,376	改善・変更	C	改善・変更
	こども-32	障害者施設管理運営事業		986	1,519	2,505	現状維持	B	現状維持
	健福-02	社会福祉運営事業		41,809	8,356	50,165	現状維持	A	現状維持
	健福-03	社会福祉協議会支援事業		52,360	5,317	57,677	現状維持	A	現状維持
	健福-04	福祉センター管理運営事業		46,091	9,875	55,966	現状維持	A	現状維持
	健福-05	共生社会推進事業		6,277	9,115	15,392	拡充	A	拡充
重	健福-06	包括的支援体制推進事業		15,962	10,634	26,596	現状維持	A	現状維持
	健福-08	社会福祉運営事業		283	3,614	3,897	現状維持	B	現状維持
	健福-09	民生委員児童委員活動推進事業		36,274	15,034	51,308	現状維持	B	現状維持
	健福-10	戦傷病者戦没者遺族等援護事業	法定	2,462	2,855	5,317	現状維持	B	現状維持
	健福-11	行旅病人死亡人援護事業	法定	4,898	3,942	8,840	拡充	B	拡充
	健福-12	中国残留邦人等支援事業	法定	0	0	0	現状維持	B	現状維持
	健福-13	生活困窮者自立支援事業	法定	82,803	17,392	100,195	拡充	A	拡充
重	健福-14	ひきこもり対策推進事業		1,288	15,793	17,081	拡充	S	拡充
	健福-15	生活保護事務	法定	20,235	26,428	46,663	現状維持	B	現状維持
	健福-16	扶助事業	法定	2,177,647	98,510	2,276,157	現状維持	B	現状維持
重	健福-18	包括的支援体制推進事業		284,494	10,634	295,128	拡充	A	拡充
	健福-19	高齢者福祉運営事業		448	5,317	5,765	現状維持	A	現状維持
	健福-20	高齢者施設福祉事業		57,892	5,317	63,209	現状維持	A	現状維持
	健福-21	高齢者在宅福祉事業		18,576	15,192	33,768	拡充	A	拡充
	健福-22	高齢者生活支援事業		4,560	2,279	6,839	現状維持	A	現状維持
	健福-23	高齢者活動運営事業		20,732	16,632	37,364	拡充	A	拡充
	健福-24	シルバー人材センター支援事業		33,087	1,519	34,606	現状維持	A	現状維持
	健福-25	在宅福祉サービスセンター管理運営事業		105,526	6,077	111,603	現状維持	A	現状維持
	健福-26	老人福祉センター管理運営事業		208,059	4,558	212,617	現状維持	A	現状維持
重	健福-28	包括的支援体制推進事業		8,406	8,356	16,762	現状維持	A	現状維持
	健福-29	高齢者施設福祉事業		2,093	760	2,853	現状維持	A	現状維持
	健福-30	高齢者生活支援事業		80,836	7,596	88,432	現状維持	A	現状維持
	健福-31	高齢者施設整備事業		981	3,798	4,779	拡充	A	拡充
	健福-33	障害者福祉運営事業		271,761	71,946	343,707	拡充	A	拡充

重点事業	整理番号	事業名	法定受託事務	事業費(千円)	人件費(千円)	総事業費(千円)	事業評価	貢献度	最終評価
	健福-34	障害者生活支援事業	法定	132,554	9,691	142,245	現状維持	A	現状維持
	健福-35	障害者福祉サービス事業		4,245,699	56,182	4,301,881	拡充	A	拡充
	健福-36	障害者社会参加促進事業		32,104	15,635	47,739	現状維持	A	現状維持
	健福-37	障害者医療助成事業		557,157	12,074	569,231	現状維持	A	現状維持
重	健福-38	障害者雇用対策事業		79,940	41,825	121,765	現状維持	A	現状維持
	健福-39	障害者施設管理運営事業		673	1,747	2,420	現状維持	A	現状維持
	健福-51	国民年金事務	法定	128	34,103	34,231	現状維持	A	現状維持

4. 評価対象年度の主な実施内容

共生共創部

①職員の共生意識の醸成に向け、新採用職員及び中堅主事職員研修を実施したが、市民向け研修会については、講師調整が不調となり実施を見送った。
 ②庁内において検討されている孤独・孤立プラットフォームの会議に参加し、関係部署と協議しながら地域支援の検討を進めた。

※実施できなかった事業とその理由

なし

こどもみらい部

障害児活動支援センター及び障害児通所支援施設のバリアフリー設備を活かし、医療的なケアを必要とする重症心身障害児の受け入れが可能な通所支援事業及び余暇活動の場を確保した。

※実施できなかった事業とその理由

なし

健康福祉部

- ・共生社会を推進するため、市民対象の研修を2回実施した。
- ・鎌倉市ケアラー支援条例策定に向け、庁内検討委員会及び検討部会を計9回開催し、条例の目的、定義、基本理念及びケアラー支援に関する施策等について議論した。
- ・鎌倉版フォルケホイスコーレ事業を実施し、自身の現状や将来に不安を抱く市民を対象に社会とのつながりを促す場を設けるとともに、自分の進む道を見出すための研修を2クール（1クール当たり6回の会合）を実施した。併せて、こうした取組を広く周知するための広報活動を実施した。
- ・重層的支援体制整備事業の推進に当たり、庁内連携会議を開催し、関係各課と協力しながら、事業を推進する上での課題の把握、及びその解決に取り組んだ。
- ・ひきこもり支援については、令和5年度からひきこもり支援員を増員して2名として相談支援体制を強化したほか、令和4年度から開始した居場所づくり事業の中で、海藻拾いやビーチクリーンを実施し、利用者同士がコミュニケーションを図り、社会参加の機会となるような場を提供するなどの取組みを行った。また、家族会を開催し、当事者世帯の抱える思いや悩みを共有する場を設定するなど、事業の拡充を行った。更には、住民向けの講演会を神奈川県との共同で広域実施したほか、ひきこもり相談窓口のチラシをするなど、事業を広く周知するための取組みを行った。
- ・福寿優待サービス事業の協賛店舗等を掲載したマップの作成や地域貢献送迎バスモデル事業の協力施設拡充のため制度の見直しを行うなど、既存の外出支援に係る事業の拡充を図った。
- ・包括的支援体制整備事業については、自主活動団体への支援として補助金交付や専門職派遣を行い、介護予防、フレイル予防に取り組んだ。また、高齢者施設整備事業については、第8期鎌倉市高齢者保健福祉計画に基づき、地域密着型サービス事業所の公募を行い、事業所整備に取り組んだ。
- ・鎌倉市障害者二千人雇用センターでは、障害のある当事者や障害者雇用を行う企業等への支援等を通じて、障害のある方の「働きたい」「働き続けたい」、企業の「雇用したい」「雇用し続けたい」をサポートすることで、一般就労者35名、福祉的就労者21名の合計56名の新規就労に結びつけることができ、障害のある方の自立と社会参加を推進した。

一方、ワークステーションかまくらでは、障害者就業支援員によるサポートを受けながら、障害のある職員が庁内各課から依頼された事務に従事し、延べ7名のうち2名の職員が、企業等に就職することができた。

また、「デジタル就労支援センターKAMAKURA」における目標登録者数50名については、令和5年度は、1年間を通じて計55名【暫定値】に対して支援を行うことができ、就労に困難を抱える障害者等への就労の機会の提供、就労支援の一助になっているものとする。

※実施できなかった事業とその理由

なし

※ 前年度外部評価における提言・質問に対する回答

提言・質問	回答
「鎌倉版」と銘打たれた事業が多く実施されているが、一般的な事業との相違点について、工夫されている点などを明確にするべきである。	鎌倉版地域包括ケアシステムについて、説明します。 地域包括ケアシステムは、高齢者分野に特化し、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進するものです。 一方、鎌倉版地域包括ケアシステムは、高齢者のみならず、障害者、子ども、生活困窮者など生活上の困難を抱える方が地域において自立した生活を送ることができるよう、地域の多様な主体が我が事として参加し、世代や分野を超えて地域が丸ごとつながる仕組みづくりを目指しています。今後は、高齢者分野の地域包括ケアシステムの構築及び分野をまたいだ鎌倉版地域包括ケアシステムの構築を通じ、地域共生社会の構築を進めてまいります。 鎌倉版フォルケホイスコーレについて、説明します。 本事業は、北欧の成人教育機関「フォルケホイスコーレ」を参考にしつつ、北欧とは異なる制度のもとでの取組となることから、誤解が生じないよう、事業名称を「鎌倉版」としています。鎌倉版では、3か月で6日間、日帰りでの研修を年間2コース実施しています。一方、北欧の「フォルケホイスコーレ」は、一定期間、寮で集団生活を送るプログラムとなっており、学期単位で生徒を受け入れます。「フォルケホイスコーレ」では、教師と生徒が対話を繰り返すことで、自主性と自己肯定感を高め、同時に一人ひとり違った意見、価値観を持つことの多様性を認める寛容さや、集団として一つの方向に意見を収束させる合意形成能力を学ぶことを目指しているほか、成績表やテストなどでの評価を行わない特徴があり、鎌倉版の事業にもその理念を反映しています。 かまくら版孤・孤立対策官民連携プラットフォームについて、説明します。 令和4年2月に、内閣府が、コロナ禍で顕在化した孤独・孤立の問題に継続して対応していくことを目的に「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」を令和4年2月に設置し、本市もその会員となっています。会員の自治体において地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの組成が推進されていることから、本市でも、「かまくら版孤・孤立対策官民連携プラットフォーム」の組成準備を進めているところです。このたび、令和6年3月21日に市及び民間事業者の幹事4者間で「人と地域がつながるプラットフォームかまくら（鎌倉版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム）」の運営に関する協定を締結し、令和6年4月1日より、「人と地域がつながるプラットフォームかまくら（鎌倉版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム）」を創設のうえ、運営していくこととなりました。 今後は「鎌倉版」とした事業について、その内容や特徴についてわかりやすく記載してまいります。
フォルケホイスコーレ事業、フレイル予防、BPOなど、通常は初めて聞く人が多い言葉について、説明があるべきである。初出や市民にとって分かりにくい専門用語は簡単にでも注釈で説明すべきである。	鎌倉版フォルケホイスコーレ事業は、共生社会を構成する人材の育成を目指し、市民研修プログラムを実施する事業です。コロナ禍を期に、現状や将来に明確なあるいは漠然とした不安を抱く市民が増えたことを受け、長期的な視野を持ち、社会との新たなつながりを構築し、自分の進む道を見出す機会を得られるよう、鎌倉市が開発したもので、焚火を囲んでの対話、室内での表現のワークショップ、街歩きからなるプログラムとなっています。 BPOとは、ビジネス・プロセス・アウトソーシングの略で、自社の業務の一部を外部に委託する手法の1つです。 フレイル予防とは、心身の活力が低下した状態になることへの予防のための取組みのことです。 今後は、専門用語等内容が分かりにくいものについて、注釈を記載するなど工夫してまいります。
ケアラー支援に特化した支援体制を検討中とのことだが、対象者にとってデリケートな問題であると思う。今後の進展を期待している。効果の評価は分野の性質上、どうしても『どちらともいえない』に収まるが、地道な取り組みを引き続き続けるべきである。	支援を必要とするケアラーが既存の支援体制から取りこぼされることのないよう、既存の支援体制を強化する方向で、現在、支援体制の検討を進めているところです。ケアラー支援については、対象者の意思を尊重、配慮しながら、ケアラーが支援を必要とした際に速やかに対応できるよう、体制整備を図ってまいります。

※ 前年度外部評価における提言・質問に対する回答

提言・質問		回答
ヤングケアラーや引きこもりといったデリケートで表に出にくい問題は、細やかなケアや地域との連携や繋がりが必要不可欠である。包括支援センターの役割が大きい、一つのところに役割が集中しないよう、市の横の繋がりも強化しながら連携するべきである。		→ 包括的支援体制推進事業を継続して実施し、相談支援や地域での受け止めについて分野を横断した連携強化を図ることで、ヤングケアラーやひきこもり状態の方を誰ひとり取り残さないよう、セーフティネットを構築してまいります。
研究会の実施回数を指標とするのではなく、その研究や会議によって、なにが生み出されたか大事であり、アウトカムを記述すべき。複数そうした記述が見られる。研修会や検討部会の会議の回数にはあまり意味がなく、議論の結果、何が変わり、進捗したり、成果が出たのかを記述するべきである。		→ 令和5年度から、まずは、健康福祉部の所管する鎌倉市地域福祉計画の進捗管理において、関連事業の取組成果のとりまとめにあたり、新たに、研修の概要や参加者の評価などを明確に成果に反映する方針を設け、業務を進めています。
ケアラー支援条例の令和5年度制定を目指しておられるが、具体的な内容はどのようなものか。		→ ケアラー支援条例の制定に向けては、ケアを必要とする市民とケアラーを包括的に支援する視点、ケアラーが孤立することのない環境づくりの視点、特に配慮が必要となるヤングケアラーへの視点を大切にしつつ、広報及び啓発、体制の整備及び構築のほか、ケアラーへの支援に関し、人材育成、情報連携、伴走支援、つながりの推進、自立・学習・修学・就業支援、ケアを必要とする市民への支援を基本的施策として位置付ける方向で準備を進めています。
「かまくら版孤独孤立対策官民連携プラットフォーム準備会の組成」により、創出された「支えあう社会づくりのきっかけ」とは具体的にどのような事か。		→ 準備会の組成を通じ、これまで接点を持たなかった市民活動分野の中間支援団体(市民活動支援センター)、地域福祉分野の中間支援団体(鎌倉市社会福祉協議会)、地域福祉の拠点施設を有する社会福祉法人らが、はじめて同じ問題意識を持ち、協力しながら「かまくら版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」を運営する機運を高められたことは、分野を超えて支え合う関係の構築につながるものと評価しており、支えあう社会づくりのきっかけとなったと認識しています。
「フォルクヘイスコーレ事業」の評価はどのように確認しているのか。		→ 焚火を囲んでの対話、室内での表現のワークショップ、街歩きからなるプログラムを通じ、参加者が、主体性、他者への理解、寛容さ、多様なコミュニケーション等を体得し、市民性を育み、地域との新たなつながりを構築できるよう、取り組んでいます。事業の新規性から、これまで、既存の指標を用いての評価が難しかったのですが、今後は、市民幸福度調査を用いた経年評価を行うことで、事業の狙いに対する評価を調べていきたいと考えています。 なお、福祉サービスにつながりにくく、社会参加が難しい市民の中には、福祉の縦割りをなくし、あえて対象を問わないプログラムとすることで支援につながる方もいることから、参加者個々の状況や考えに応じ、学び、働き、成長でき、共に助け合い、繋がり合うことができるよう、あえて「ひきこもり当事者」「障害当事者」などと対象者を限定することせず、幅広い市民を対象に事業を実施しています。

5. 成果指標

成果指標①		多様性を尊重し、支え合う社会(共生社会)が実現していると思う市民の割合 (鎌倉市SDGs未来都市計画 指標)					出典	市民アンケート調査		
	令和2年1月	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
初期値	52.8	目標値	55.7	58.9	61.8	64.7	67.6	70.0	%	
		実績値	未実施	60.2	61.0	62.0				
		達成率	—	102.2%	98.7%	95.8%			%	

成果指標②		生活課題等に対して、身近なところで相談できる人や場がある市民の割合						出典	市民アンケート調査	
	令和2年1月	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
初期値	56.0	目標値	56.0	58.8	61.6	64.4	67.2	70.0	%	
		実績値	未実施	52.7	53.2	51.8				
		達成率	—	89.6%	86.4%	80.4%			%	

成果指標③		要支援・要介護認定率(第1号被保険者の性別・年齢別人口構成の影響を除外した認定率)						出典	厚生労働省「地域包括ケア見える化システム」から抽出	
	平成30年度	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
初期値	17.7	目標値	18.5	18.7	19.0	19.4	19.6	19.7	%	例年10月前後に公表されるため
		実績値	17.9	18.3	18.6	未定				
		達成率	103.4%	102.2%	102.2%	—			%	

成果指標④		就労している障害者数 (鎌倉市SDGs未来都市計画 指標)						出典	所管課調べ	
	令和元年9月	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
初期値	1,526	目標値	1,642	1,820	2,000	2,000	2,000	2,000	人	
		実績値	1,623	1,810	1,906	2,051				
		達成率	98.8%	99.5%	95.3%	102.6%			%	

6.「施策の方針の成果指標」の達成状況等を踏まえた施策の達成状況の分析

共生共創部

・啓発事業を通じて一定の実績を得たが、目標値の達成には至っていないため、より研修会等への市民参加を促すことのできるテーマ設定などに取り組む必要がある。

こどもみらい部

・バリアフリーの施設を賃貸し、医療的なケアを必要とする重症心身障害児の受け入れが可能な通所支援事業及び余暇活動の場を確保することにより、施設の安定稼働を行うことができた。

健康福祉部

・共生社会の推進に関しては、市民を対象として、映画上映を含めた身近で参加しやすい題材での啓発研修の開催や、鎌倉版フォルケホイスコレ事業の広報紙での周知により、認知度が高まったと考えており、実績値も上昇していると考えているが、目標値には達していないことから、引き続き周知啓発に努めていく。

・重層的支援体制整備事業の開始により世代を問わない相談体制が整い、市民の利便性は向上しているが、市民アンケートによる「身近なところで相談できる人や場がある」との回答に結び付くよう市民への周知表現を工夫していく。

・介護予防、フレイル予防の活動を推進することで、要支援・要介護認定率や介護給付費の増加の軽減につながると考える。また、自主活動団体の活動が活性化するよう、多世代の参加勧誘を推進する他、団体同士の情報共有の機会を設定していくこととしている。また、高齢者施設整備事業については、第8期鎌倉市高齢者保健福祉計画に基づく整備に係る事務を着実にに行った。

・就労している障害者数については、令和5年12月時点の集計において、目標としていた2,000人を累計で達成することができ、令和6年3月末時点では、2,051人である。本市における多様な障害者雇用への取組は、市民、障害当事者、企業等に徐々に浸透しており、障害者雇用の推進が図られていると考える。

7. 主な実施内容と施策の達成状況の分析を踏まえた評価

※主な実施内容と目標とするまちの姿の関係(達成状況とその理由)

「施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果」における貢献度の分析

共生共創部

・職員向け研修の実施により、共生社会の構築に向けた市の方針や考え方を庁内で共有することができた。引き続き、職員研修を行っていく。また、市民の理解が進んでおらず、市民に伝わるような啓発をする必要がある。

こどもみらい部

令和5年度以降の事業者を選定・契約し、医療的なケアを必要とする重症心身障害児の受け入れが可能な通所支援事業及び余暇活動の場を確保した。

健康福祉部

・ケアラー支援条例策定に係る検討は、支え合い暮らすことのできる社会の実現に繋がるものであり、その過程を通じて取り組んだ孤独孤立対策官民連携プラットフォームの準備会及び「人と地域がつながるプラットフォームかまくら(鎌倉版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム)」の創設により、支えあう社会づくりのきっかけを創出することに貢献したと考える。

・フォルケホイスコーレ事業は、自分らしく暮らすことのできる社会の実現に繋がるものであり、取組自体の周知や参加者の高い評価により、自分らしく暮らすことを肯定する市の理念が明示され、共生社会に向けた意識のさらなる形成に貢献したと考える。

・重層的支援体制整備事業は、生涯にわたって安心して暮らせる社会の実現につながるものであり、福祉の包括的な支援体制の強化を図ることで、困ったときに身近な場所で相談できる場所の整備が進み、市民の安心感の確保に貢献したと考える。

・ひきこもり支援において、「ひきこもり地域支援センター」を拠点として、相談支援体制の拡充や居場所の運営をはじめとした多様な社会参加の場を提供できたことは大きな成果であり、市民一人ひとりの多様性を認め、自らが望む形で社会との関わりを持てるよう推進することへの貢献に繋がった。

・高齢者の社会参加や生きがいづくりの支援のための事業を継続して実施するとともに、外出支援のため既存事業の拡充を図るなど、高齢者支援の充実に向け取り組んでおり、自らが望む形で社会との関わりを持ち、生涯にわたって安心して自分らしく暮らすことのできるまちの実現に貢献している。

・地域の身近なところで自主的に活動する団体を支援することにより、フレイル予防、介護予防を実施し、安心して過ごせる地域づくりを推進した。

・平成30年度から取り組んできた障害者二千人雇用事業は、目標としていた就労者数2,000人を達成することができ、施策の方針における目標とするまちの姿の実現への一助になったものと考え。

・引き続き、様々な障害者雇用への取組を継続することで、障害のある人もない人も、だれもが一生にわたり、健やかで安心して自分らしく地域で暮らすことのできるまちを目指していく。

8. 今後の方向性

共生共創部

・共生社会の実現に向け、啓発対象者の設定や今日的課題を題材とするなど、より効果的な市民啓発を実施する。また、引き続き、職員研修等を実施し、共生社会についての職員の理解が深まるよう職員課と連携し計画的に研修を実施する。

こどもみらい部

障害児活動支援センター及び障害児通所支援施設の今後のあり方について情報収集を行い、引き続き施設の安定稼働のための検討を行う。

健康福祉部

・ケアラー支援条例制定に伴い、困りごとを抱えるケアラーを発見するための広報・啓発を行うとともに、支援が必要なケアラーに関し、新たな支援策や既存の支援策を活用しながら、支援を行っていく。

・鎌倉版フォルケホイスコーレ事業を継続して実施することで、共に助け合い、つながり合うことができる多様性のある共生社会を構築する人材の育成と、市民同士の地域におけるつながりの創出を目指していく。

・重層的支援体制整備事業交付金を活用し、包括的支援体制推進事業を継続して実施することで、地域共生社会の実現を目指す。

・生活困窮者からの相談は多様化・複雑化・複合化しており、一人ひとりの状況に応じた継続的な支援が必要とされることから、様々な関係機関と連携した包括的支援の強化に取り組むとともに、フードバンク事業等を通じて支援が必要な人が適切な支援につながるよう、支援体制の充実を図っていく。

・ひきこもりの居場所の実施回数の増や機能の充実を図るとともに、オープンデイの開催や活動広報紙・リーフレット等により事業の周知を行い、相談につながっていない方の掘り起こしを強化し、ひきこもり地域支援センターとして事業を拡充していく。

・高齢者の社会参加や生きがいづくりを支援することは健康維持や介護予防に有効であり、今後も継続して事業を実施していく。外出支援については、現在実施している事業の拡充を図りながら、引き続き支援の在り方を検討していく。

・地域の自主活動団体が継続して運営できるよう補助金制度を継続すると共に、団体活動の実情を訪問により把握し、課題の整理などをしていく。

また、鎌倉市高齢者保健福祉計画に基づき施設整備を行い、入所待機者への対応を進める。

・鎌倉市障害者二千人雇用センターにおける障害のある方の「働きたい」「働き続けたい」、企業の「雇用したい」「雇用し続けたい」へのサポートをはじめ、様々な障害者雇用への取組を通じて、障害のある方の自立と社会参加を推進していく。

9. 今年度(評価年度)の目標

共生共創部

① 共生社会の実現に向けた啓発事業として、啓発対象者を設定した上で今日的課題を題材とした市民向け講座等を開催し、更なる共生意識の醸成を図る。

こどもみらい部

医療的なケアを必要とする重症心身障害児の受け入れをはじめとした、障害福祉サービスのニーズを確認するため、引き続き障害児通所支援事業者や利用者等からの情報収集を行う。それを踏まえて課題の整理と今後の事業のあり方についての検討を行う。

健康福祉部

- ・ケアラー支援条例制定に伴い、困りごとを抱えるケアラーを発見するための広報・啓発を行うとともに、支援が必要なケアラーに関し、新たな支援策や既存の支援策を活用しながら、支援を行っていく。
- ・鎌倉版フォルケホイスコーレ事業において、現状や将来に不安を抱える市民に対して、長期的な視野をもち、自分の進む道を見出す機会を得られるような研修を行うことで、共生社会を構築する人材の育成と、地域におけるつながりの創出を目指していく。
- ・包括的支援体制推進事業においては、地域づくり及び支援会議のあり方などの検討を進め、地域における支援体制の強化を目指す。
- ・生活困窮者への支援として、フードバンク事業を継続的に実施できるよう協働事業者とともに実施体制の検討を進めていくとともに、地域食堂を通じた地域の居場所づくりに取り組んでいく。また、ひきこもり対策の推進として、ひきこもり地域支援センターを拠点とした、相談支援・居場所・就労練習・地域交流による支援を拡充していく。
- ・現在実施している外出支援に係る事業の拡充を図りながら、引き続き支援の在り方を検討する。
- ・より活用しやすい制度に見直しをした補助金制度について、その評価をしていく(団体間の情報交換会実施や専門職派遣による団体支援等における聞き取り等)。また、第9期鎌倉市高齢者保健福祉計画に基づき、地域密着型サービス事業所等の公募を行い、事業所等の整備を進める。
- ・令和6年4月に企業に対する障害者法定雇用率が引き上げられることから、引き続き、就労を希望する障害者への就労支援、障害者雇用を検討している企業への雇用支援を通じて、一人でも多くの障害のある方の就労に結び付くよう、障害者雇用への啓発等に努めていく。